

地域実践研究成果の紹介

鹿沼市におけるインクルーシブ教育システムの推進 －全教員の理解啓発とそれぞれの立場による専門性の向上を目指して－

特徴

本研究では、インクルーシブ教育システム構築に向けての市内全教員に対する理解啓発と、教員の役割や立場に応じた専門性の向上を目的に、研修会の開催や実践研究、啓発用のリーフレット作成など、インクルーシブ教育システム構築を目的として、市教育委員会が行う体制構築を検討しています。

活用していただきたい方

- ・ 小・中学校の通常の学級担任の先生
- ・ 小・中学校の特別支援教育コーディネーターの先生
- ・ 小・中学校の管理職の先生
- ・ 市町村教育委員会担当指導主事の先生

研究成果の活用

インクルーシブ教育システムの構築に向けて

インクルーシブ教育システムとは、人間の多様性の尊重等の強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みです。そこでは、障害のある者が一般的な教育制度から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人的に必要な「合理的配慮」が提供されること等が必要とされています。つまり、インクルーシブ教育システムにおいては、「同じ場で共に学ぶことを追求する」とともに、「個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供する」ことが重要です

参考：障害者の権利に関する条約・中教審初等中等教育分科会報告

新学習指導要領にも明記されています

- 新小中学校学習指導要領解説 総編編
- ・ 「障害者の権利に関する条約」に掲げられている教育の理念の実現に向けて、障害のある児童の就学先の決定の仕組みの改正なども踏まえ、通常の学級にも、障害のある児童のみならず、教育上特別の支援を必要とする児童が在籍している可能性があることを前提に、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分に理解することが不可欠である。
 - ・ 全ての教師が障害に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深め、障害のある児童などに対する組織的な対応ができるようにしていくことが重要である。
 - ・ 校長は、特別支援教育実施の責任者として、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを指名し、校務分掌に明確に位置付けるなど、学校全体の特別支援教育の体制を充実させ、効果的な運営に努める必要がある。

鹿沼市におけるインクルーシブ教育システム構築の推進について

リーディングプロジェクト

インクルーシブ教育システムを推進し、多様な教育的ニーズに対応できる学びの場の確保に努めるとともに、通常の学級においても、障害のある子供が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等の学習過程において想定される困難さに対応した指導の工夫を図るなど、特別支援教育の一層の充実を図ります。

教員の立場における役割

<p><管理職として></p> <p>○校長は、特別支援教育実施の責任者として、校内委員会を設置して、特別支援コーディネーターを指名し、学校全体の特別支援教育の体制を充実させる必要があります。</p> <p>○学校全体として専門性の向上を確保していくためのリーダーシップが欠かせません。</p> <p>合理的配慮について</p> <p>合理的配慮はひとりひとりの障害の状態や教育的ニーズに応じて決定される。決定については、学校と本人、保護者で発達の可能性を考慮しながら、可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供されることが望まれる。その際、その内容を個別の教育支援計画に明記するなど変更が定められることのないようにすることも大切である。</p>	<p><特別支援コーディネーター・特別支援担当として></p> <p>○特別支援教育担当者は、インクルーシブ教育システムの理念を広めていく役割にあります。</p> <p>○特別支援学級や通級による指導の担当教員は、特別支援教育の重要な担い手であり、その専門性を校内で生かしていきます。また、専門性の向上を図ることも必要です。</p>	<p><通常学級の担当として></p> <p>○すべての教師は、特別支援に関する一定の知識・技能を有していることが求められます。</p> <p>○通常学級内でも、合理的配慮の提供やユニバーサルデザインなど、教育的ニーズへの対応が必要です。</p> <p>（「合理的配慮」の否定は、障害を理由とする差別に含まれることとされています）</p>
---	--	---

平成31年3月 鹿沼市教育委員会

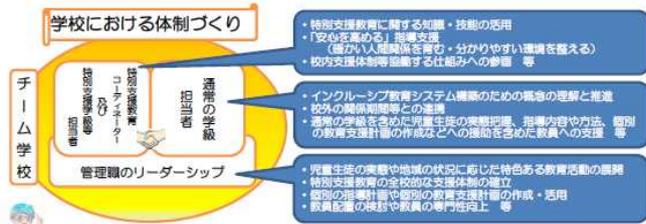
インクルーシブ教育システムの定義をわかりやすく示しています

通常の学級の先生にも理解しやすいように、学習指導要領と関連づけて説明しています

それぞれの先生の立場でどのように関与するかを具体的に示しています



研究の内容と主な成果



学校の体制づくりのイメージを示しています！

鹿沼市内の小中学校ではこんな取組をしています。

具体的な支援の紹介

すぐに取り入れられるものから始めてみませんか？

<p><指示を行うときの支援></p> <p>ことばと合わせて視覚的に伝えています。</p>	<p><指示を行うときの支援></p> <p>ことばと合わせて具体物を使って伝えています。</p>	<p><物の片付けられない児童生徒への支援></p> <p>毎時間チェックシートを作成し自分でできるように意識付けを行っています。</p>
<p><苦手な教科への意欲を持続させる支援></p> <p>課題は量ではなく時間を設定して充実感をもたせています。</p>	<p><注意集中が短い児童生徒への支援></p> <p>雑音に理由をもたせて意味ある行動と意味づけをしています。</p>	<p><読むことについての支援></p> <p>特性に応じた一行カードを使って読むことの「苦しさ」を緩和しています。</p>
<p><気になる子どもの個別の支援計画を作成></p> <p>通常学級の児童生徒についてもいるような視点から支援ができるように作成をしています。</p>	<p><学校及び関係機関との連携></p> <p>関係機関と連携を行い、うまくいっている支援について確かなり性をしています。</p>	<p><インクルDB></p> <p>国立特別支援教育総合研究所ホームページ</p> <p>「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組まれている実践事例について検索できます。</p>

※ このリーフレットは平成30年度国立特別支援教育総合研究所「地域実践研究事業」において作成しました。

平成31年3月 鹿沼市教育委員会

手立ての例で具体的なイメージを示しています

インクルーシブ教育システム構築との関連性

1. 体制整備 : (1-1)園内・校内での支援に係る体制整備
2. 施設・整備 : (1-2)教育支援機器の整備
4. 指導体制 : (1-1)指導体制の整備・充実

*インクルーシブ教育システム構築の観点とは、国立特別支援教育総合研究所横断的研究「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」で検討したインクルCOMPASSの観点を規準にしています。

詳しい内容は報告書をご覧ください

地域実践研究 インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究 報告書
鹿沼市におけるインクルーシブ教育システムの推進－全教員の理解啓発とそれぞれの立場による専門性向上を目指して(鹿沼市)